

## は し が き

平成25年は、全国では7月から8月にかけて記録的な大雨により山口県、島根県、岩手県、秋田県を中心として浸水被害、土砂災害が発生し、また、9月には台風18号による降雨で運用開始後、初の「特別警報」が発令された福井県、滋賀県、京都府で記録的な大雨となるなど、四国から北海道にかけての広範囲で被害が発生しました。さらに10月には台風26号により東京都大島町で大規模な土砂災害が発生し、多くの方々が被害に遭われました。

本県では公共土木施設が被災した異常気象は、6月の梅雨前線豪雨、9月の台風17号よる豪雨など計11回発生しました。

特に、6月の梅雨前線豪雨では、連続雨量が中種子町熊野浦で292ミリなど熊毛地方で豪雨となったほか、9月の台風17号では時間雨量が霧島市溝辺町71ミリなど県本土各地で豪雨となり、河川の氾濫や土砂崩れ等が発生し、河川や道路等の公共土木施設に大きな被害をもたらしました。

平成25年災の査定決定金等は、合計で124件 812,011千円で、県本土の梅雨期間の降水量が平年の約半分と非常に少なかったほか、年間降水量も県本土、奄美地方ともに平年の8割程度と少なかったことから、平成元年以降では、平成21年に次いで、2番目に少ない結果となりました。このうち梅雨前線豪雨と台風によるものが91件 562,172千円と平成25年災のほとんどを占めました。

復旧状況は、被災箇所の早期復旧に努力を重ねた結果、平成26年3月末までに、決定箇所においては全体の79.8%に当たる99箇所、平成26年12月末までに97.6%に当たる121箇所が完成しています。

本県は、災害を受けやすい地理的、気象的諸条件下にあります。県民の生命・財産を守るため「安心・安全な社会の形成と県土づくり」を県政の重要な施策としているところであり、今後とも災害復旧に最善の努力を続けていくつもりであります。

ここに、平成25年発生 of 国土交通省所管公共土木施設災害の状況を収録しましたので、今後の防災及び災害復旧の参考にしていただければ幸いです。

最後に、6次にわたる災害査定に際して、ご指導、ご協力をいただきました国土交通省の査定官、検査官、事務官及び財務省の立会官各位ならびに災害復旧にご尽力いただいた関係各位に対しまして、心から感謝申し上げます。

平成27年 1 月

鹿児島県土木部長 久保田 一

